

単元名 **かん字の読み方**配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。
 (3) 第2学年までに配当されている漢字を使い、漢字の異なる読み方に気を付けて読もうとする。

標準的な展開例

02010210_001

【教材名】かん字の読み方 (下 P. 29～P. 31)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 複数の読みがある漢字を知る。 ★漢字のいろいろな読み方を知ろう。 ○「九」や「日」のには、さまざまな読み方があることを知る。 ○「九」や「日」の漢字を使って書き表す言葉を集めてノートに書く。 ○「上」と「下」のさまざまな読み方を知る。</p> <p>○「上」と「下」を使った例文の読み方を確認したり、送り仮名の働きを知ったりする。</p> <p>2 練習問題を解き、複数の読み方がある漢字を探す。 ○教科書(P. 31)下段の問題を解く。</p> <p>○教科書(P. 156～158)「これまでに ならったかん字」から複数の読み方がある漢字を探し、文を作る。</p> <p>○書いた文を紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し音読させ、同じ漢字でも違う読み方があることに気付かせる。 ・漢字の言葉集めをした後に、それぞれの読み方ごとに仲間分けしてもよい。 ・「うえ」「うわ」などの細かい違いにも注意させる。 ・「川上」「下山」などの児童の聞き慣れない言葉については、意味も説明する。 ・漢字の読み方をはっきりさせるためには、送り仮名が重要であることを押さえる。 ・再度「上」や「下」の例文を読み、読み方によって送り仮名が変わっていることを押さえる。 ・ただ問題を解かせるのではなく、「送り仮名クイズ」などのクイズ形式で提示するなどして意欲を高めさせるとよい。 ・送り仮名の違いに気を付ける。 ・同じ漢字を使って、読み方の違う文を2種類以上作らせる。 【評】文を作る活動を通して、漢字を正しく読み、文や文章の中で適切に使って文を書く「知識・技能」を評価する。 ・ペアやグループでクイズをして、発表し合う方法で紹介し合ってもよい。 【評】文を紹介し合う活動を通して、さまざまな読みのある漢字を使ったり読んだりする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】